

研究協力校：大垣市立北中学校

岐阜県立大垣北高等学校

これまでの取組と生徒の実態

中学校

- ・落ち着いて授業に参加でき、単語や短い文の意味など、簡単な問いやペアでの音読発表には積極的に挙手発言ができる。
- 一方、ゲームなどの一語や数語の問いかけには素早く楽しく反応できるが、まとまった文章で文と文のつながりを意識して発言することに弱さがある。
- ・英語による指示など、クラスルームイングリッシュを多用しているが、一層教師の英語使用を増やしたい。

高等学校

- ・「コミュニケーション能力を高める速読力・聴解力の養成」をテーマにし、多読練習・速読練習、聴解練習を継続的に行った。
- 特に、フレーズリーディングの練習を通して、直読直解の方法を習得し、活用することができている。
- ・「話すこと」「書くこと」の領域においては、十分に効果を上げているとは言い難く、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を十分に育成できていない。

プロジェクトを通して付けたい力、大切にしていこうこと、明らかにしたいこと

- ・コミュニケーション能力の中でも、特に表現の能力に焦点をあて、それを育成するために、中学校と高等学校と連携を図った意図的な指導の在り方を明らかにしていこう。
- ・中学校までに身に付けさせたい力、高等学校で身に付けさせたい力を共通理解し、発達段階を踏まえながら、言語活動や指導方法の工夫について明らかにしていこう。
- ・昨年度の継続として、フレーズリーディングの指導を授業の中に取り入れていこう。

平成16年度の具体的な取り組み内容

中学校

研究テーマ

まとまった考えをフレーズを意識して英語で発話できる生徒の育成

- ①英語を聞く・話す時間の確保
 - ・クラスルームイングリッシュを見直し、多用していく。
 - ・コミュニケーションを通して問題解決を図る言語活動を工夫する。
 - ・帯活動としての“Talking Time”の定着を図る。
- ②個が生きるための学習集団の工夫
 - ・単元で付けたい英語表現を明確にし、出口の活動で意識的に使えるように指導する。
 - ・個が生き生きと表現できるための効果的な学習集団（ペア、小集団、グループ、スクランブルなど）を編成する。

高等学校

研究テーマ

直読直解の方法を基礎とするコミュニケーション能力の向上

- ①4領域において効果的なフレーズリーディングの実践的な指導
 - ・フレーズリーディングの練習を継続的に行い、実際のコミュニケーションの場で効果を発揮できるような実践的な練習を行う。
- ②日常的なリスニング指導
 - ・朝リスニングを始めとしたリスニング指導を継続的に行い、英語の音声に対する興味・関心を高めさせるとともに、聴解の技能を段階的に習得させる。